

Museum
and
Library

美術工芸資料と
図書資料の

連携から見えてくるもの

ML連携
企画



岸和郎 時間の真実

WaroKishi_TIME WILL TELL

2021.06.21-09.10

附属図書館では、美術工芸資料館の展覧会「岸和郎:時間の真実 Waro KISHI_TIME WILL TELL」と連携し、建築家岸和郎 名誉教授の著作や蔵書、作品掲載資料を展示しました。

館内に岸建築事務所の書架を再現し、膨大な業績とその資料に触れることで、建築家の思考と言葉を追う展示となりました。



戦後建築 ジャーナリズムの群像

2021.03.22-04.30

展覧会「編集者 宮内嘉久—建築ジャーナリズムの戦後と、廃墟からの想像力」と連携し、附属図書館では「戦後建築ジャーナリズムの群像」と題して宮内嘉久の編著書や関連資料を展示しました。

『廃墟から』や『風声』、『建築評論』などの資料を手にとって読めるフロアとなりました。



美術の教育 / 教育の美術

2021.09.27-11.06

展覧会「美術の教育/教育の美術」と連携し、附属図書館にはヴィジュアルに富んだ蚕業関係資料を展示しました。石版図版を載せた養蚕書や女子のための蚕業講義録、万国博覧会に向け編纂された製糸会社商標などを展示、掛図の商標はデジタルサインージでも紹介しました。



日本の文様 - 伝統から近代まで -

2021.01.08-03.19

附属図書館では、展覧会「日本の文様 - 伝統から近代まで -」と連携し、柳宗悦が創刊した雑誌「工藝」(1931-1951)を週替わりで3冊ずつ展示しました。

棟方志功や芹澤銈介などによる表紙は毎号意匠が凝らされていて、ブックデザインを学ぶ学生さんの参考になったのではないのでしょうか。